



愛川ふれあいの村 7月の風景

平成29年7月 自然のたより

七夕が過ぎて気温がますます上がっていきます。梅雨明けを待つ人、梅雨の雨を待ちわびる植物との対比。食べることのできる実と食べるには勇気がいりそうなキノコが登場します。また、この時期は夜空に花火が美しく咲き、野に咲く花の美しさもそれに負けないくらい輝きはじめる頃ですね。



県花 ヤマユリ



ムラサキホウキタケ



たわわに実ったヤマモモ



メマツヨイグサ



コマツナギ



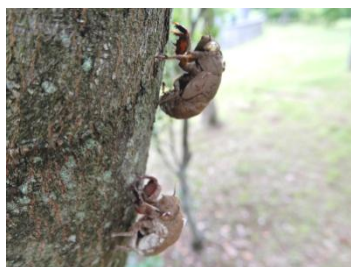
オカトラノオ



ヒルガオ



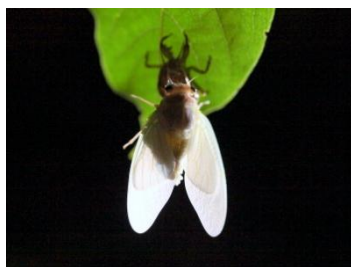
アメンボ



ニイニイゼミの抜け殻



I井モリツカムシ



アブラゼミの羽化



キキョウ



チダケザシ



オニフスベ



ヤブカンソウ

◆ム・シ・コ・フ◆

公園に行ったり、ハイキングをした時は普段より自然に目を向ける機会が多くなると思います。そんなとき、左の写真のようなものを見つけたことはないでしょうか。これは虫や菌、細菌などが原因となり、植物が異常な成長をしたもので『虫こぶ（虫えい）』^{むしこぶ（ちゅうえい）}といひます。左の写真は茎にできたものですが、葉にできる物もあります。割ってみると、体長2mm程のハエの幼虫が入っていました（右の写真）。茎が肥大してくれることでハエにとっては食べ物が増えます。さらにハエにとって良いことは生きた植物の中に隠れることで外敵から狙われにくくなります。唯一の敵は草刈りでしょうか。ハエにとっては良いことづくめの虫こぶです。いずれ植物の中で蛹になり、羽化して外に飛び立ちます。

普段、何気なく見ている自然の中には、よく観察しないと気付かないことがあります。今回の場合は実際に割って中を調べて見ることでその原因が見えてきました。自然の中にある不自然（違和感）を見つけられると、より生き物に対しての興味が湧いたりするものです。生き物がつくりだす不思議の数々に興味を持ち、ハイキングなどに出かけてみてはいかがでしょうか。

（石川）



▲ヨモギにできた虫こぶ

▲虫こぶの中の幼虫

▼最近話題の特定外来種▼

今、ニュースで話題となっている『ヒアリ』。もともとは南米中部に生息していたものが、貨物船によりアジア圏にも進出してきています。今年に入って日本でも報告例があり、横浜港では500匹以上の成虫や蛹が確認されました。

ヒアリの特徴は、赤茶色で体長2.5~6ミリ。よく見ると2つのこぶがあります。小さなアリですが攻撃性が高く、刺されると激しい痛みと水疱状に腫れ、さらに毒に対してアレルギー反応を起こすこともあります。

日本に生息しているアリは280種以上。世界には1万種以上いると言われていますが、日本に定着するのも近いかもしれません。今後のニュースが気になります。（渡部）



★実山椒★

「山椒は小粒でもピリリと辛い」とことわざで引用されるように、古くから日本人に親しまれた香辛料です。

実山椒^{みさんしょう}は青山椒^{あおさんしょう}とも言い熟していない緑色の実を指し、辛味と香りが強いです。このピリ辛成分が、体を温める作用があり、冷え性の緩和に効果があるとされています。また、芳香成分は、食欲増進や消化促進作用があるとされ、これからの季節ぴったりの香辛料です。醤油漬け・オイル漬け等、チャーハン・パスタ等でためしてみてはいかがでしょうか。（菅原）



◎八月の注目ポイント◎

うだるような日差しの中、シリシリシリといかにも暑く油のあたたまるようなアブラゼミの音が聞こえてきますが、日陰に入ると涼しい風のおかげで心地良い夏の声に変わります。

こんな暑い日、植物たちはぐったりしていますが、この植物だけは例外で畑や道端、荒地地で8ミリの黄色い花を次々と咲かせています。近くに行っても気付かずにくいののは、この花が小さく咲いているのも日照りの午前中くらいだからです。

この植物は、『スベリヒユ』といい、どこにでも生えています。へら状で緑色の肉厚な葉、茶褐色の茎で地を這うように広がっていく畑の雑草です。引き抜いて捨てるとそこに種が飛び散ったり、その場所で根付いたりする厄介な植物です。

しかし、茹でて食べると（食べ過ぎは禁物ですが）粘り気があり意外な美味しさがありません。また民間薬として利尿、解毒作用などが知られています。

（吉田）



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・石川雄馬・菅原妙子・渡部秋人

文章：吉田文雄・石川雄馬・菅原妙子・渡部秋人

編集：吉田文雄・石川雄馬・渡部秋人



愛川ふれあいの村で、検索★